広報のせ4月号
(2018)
No.658
発行／能勢町総務部総務課政策推進係
（毎月1回1日発行）
〒563-0392　大阪府豊能郡能勢町宿野28番地　☎072-734-0001
ホームページアドレス http://www.town.nose.osaka.jp　Eメールアドレス seisaku@town.nose.osaka.jp

文化財への道

横浜開拓の先駆者　吉田勘兵衛（③勘兵衛良信）

江戸に出た西田重次は勘兵衛と名のり、日本橋本材木町に店を構え、木材と石材の商売を始めます。勘兵衛は、勤勉で信義に厚く商魂巧みな倹約家でした。開業10年、30歳半ばで将軍家の御用達となり、江戸城の修築、参勤交代制度の始まりによる大名屋敷の建設にも参画できる豪商にのし上がりました。

大地震や大火が江戸の町をなめまわした3代将軍徳川家光の時代で、幕府の要職にあった能勢頼次の子どもたち（故郷の領主頼隆はじめ、長男や三男、三女の大奥老女の福）が、「勘兵衛、勘兵衛」と、その存在を引き立てました。

慶安元年(1648年)の江戸大地震により、木材・石材の販売でまたもや大儲けをした勘兵衛は、それを元手に、隅田川沿いの千住中村の音無川流域を干拓しました。江戸の人口が急増して、幕府は新田開発を奨励していたのです。

「埋め立てた者が地主。千石の地を開いた地主は、神社や寺を建ててもいいらしいぞ。」千住の取れ高は7～800石でした。勘兵衛は、千石の収穫を夢見て次の干拓地をさがし、とうとう埋め立ての理想地「武蔵・野毛横浜村」にたどり着きました。

「溺れ谷」と呼ばれる釣鐘状の入海は広く、奥に入るほど浅く、一面に葦が生えていました。ここを干拓すれば千石は十分にとれるでしょう。勘兵衛は、幕府老中から埋め立て干拓の許可を得て、明暦2年(1656年)7月、工事を始めました。勘兵衛46歳のときでした。工事請負人は、以前からの仕事仲間、黒田助兵衛です。

ところが翌年、13日間降り続いた大雨のために苦心の末に築いた潮除け堤は流され、工事は行き詰まってしまいました。（つづく）

文・平尾悦子

人の動き［3月1日現在］

（　）内は前月比

人口		10,358	(−17)
	男性	5,011	(−8)
	女性	5,347	(−9)
世帯数		4,575	(+4)
転入		18	(−3)
転出		23	(−5)
出生		3	(−2)
死亡		15	(+2)

2月中の交通事故発生状況

種別			能勢町	豊能町	合計
人身事故			2件	1件	3件
	程度	死亡	0人	0人	0人
		重傷	0人	0人	0人
		軽傷	4人	1人	5人
物損事故			20件	10件	30件
総件数			22件	11件	33件